

2026（令和8）年 4 月入学

徳島大学大学院創成科学研究科

博 士 後 期 課 程

第3次 学生募集要項

（一般入試・社会人特別入試）

徳島大学大学院創成科学研究科

〈総合科学部事務課学務係〉

徳島市南常三島町 1 丁目 1 番地

TEL 088-656-7108

〈理工学部事務課学務係〉

徳島市南常三島町 2 丁目 1 番地

TEL 088-656-7315, 7317

〈生物資源産業学部事務課学務係〉

徳島市南常三島町 2 丁目 1 番地

TEL 088-656-8021, 8020

入 試 関 係 日 程

募 集 要 項 公 表	2025（令和7）年12月頃
入 学 資 格 の 資 格 審 査 書 類 提 出	2026（令和8）年1月5日(月)まで 出願資格(7)(8)に該当する者
障がいのある入学志願者 の 事 前 相 談	2026（令和8）年1月5日(月)まで
出 願 期 間	2026（令和8）年1月14日(水)～ 1月20日(火)(17時必着) 【持参の場合】受付時間 平日9時～17時まで (ただし12時～13時を除く) 【郵送の場合】出願期間内必着
試 験 日	2026（令和8）年1月29日(木)
合 格 発 表	2026（令和8）年2月20日(金)11時
入 学 手 続	2月下旬書類送付，手続は3月上旬予定

問 合 せ 先 等

〈総合科学部事務課学務係〉

徳島市南常三島町1丁目1番地 TEL 088-656-7108

〈理工学部事務課学務係〉

徳島市南常三島町2丁目1番地 TEL 088-656-7315, 7317

〈生物資源産業学部事務課学務係〉

徳島市南常三島町2丁目1番地 TEL 088-656-8021, 8020

大学院入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

全学

徳島大学は、その理念、目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、卓越した学術および文化を継承するとともに学びの志と進取の気風をもち、未来へ飛躍する人材を養成するため、課題に対し自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求めています。

（博士後期課程及び博士課程）

- ・広い視野と高度な専門知識・技能を身につけ、自立して研究を遂行し後進を指導する能力、又は当該専門的な職業を牽引できる卓越した能力を修得しようとする人
- ・高い倫理観と強固な責任感、独自の発想力や豊かな創造力、広範な応用力、深い洞察力をもって、地域と国際社会の発展のために高度に貢献しようとする人
- ・高度な国際的視野を有し、世界をリードする研究成果を発信し、高度専門分野を牽引しようとする人

創成科学研究科博士後期課程

創成科学専攻博士後期課程では、その理念、目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいてアドミッション・ポリシーを策定している。創成科学専攻博士後期課程では、その理念、目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、中長期的な産業界・社会のニーズを踏まえ、高度な専門知識と多角的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人、研究者、あるいは起業家人材を養成するため、課題に対し自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求める。

1. 高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考を身につけ、明確な問題意識をもって自立して研究を遂行し、当該専門的な職業に従事できる卓越した能力を修得しようとする人
2. 研究遂行に関わる高い倫理観と強固な責任感を有し、専門分野に関する深い知識と広範な応用力や展開力、独自の発想力や豊かな創造力をもって、他者と協働して地域と国際社会の発展のために高度に貢献しようとする人
3. 高度な国際的視野を有し、世界水準の研究成果を発信し、高度専門分野を牽引して新たな価値の創成のために貢献しようとする人

社会基盤システムプログラム

社会基盤システムプログラムでは、社会基盤学、社会科学、あるいは人文科学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考によって、科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人、研究者、あるいは起業家人材を養成するため、課題に対して自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求める。

1. 社会基盤学、社会科学、あるいは人間科学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考を身につけ、明確な問題意識をもって自立して研究を遂行し、技術の進歩並びに知の深化及び総合化に努めるなど高度専門的な職業に従事できる卓越した能力を修得しようとする人
2. 研究遂行に関わる高い倫理観と強固な責任感を有し、社会基盤学、社会科学、あるいは人間科学分野に関する深い知識と広範な応用力や展開力、独自の発想力や豊かな創造力をもって、他者と協働して地域と国際社会の発展のために高度に貢献しようとする人
3. 高度な国際的視野を有し、世界水準の研究成果を発信し、社会基盤や社会・人間科学に関わる高度専門分野を牽引して新たな価値の創成のために貢献しようとする人

化学生命工学系プログラム

化学生命工学系プログラムでは、化学、あるいは生命工学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考によって、科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人、研究者、あるいは起業家人材を養成するため、課題に対して自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求める。

1. 化学、あるいは生命科学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考を身につけ、明確な問題意識をもって自立して研究を遂行し、技術の進歩並びに知の深化及び総合化に努めるなど高度専門的な職業に従事できる卓越した能力を修得しようとする人
2. 研究遂行に関わる高い倫理観と強固な責任感を有し、化学、あるいは生命科学分野に関する深い知識と広範な応用力や展開力、独自の発想力や豊かな創造力をもって、他者と協働して地域と国際社会の発展のために高度に貢献しようとする人
3. 高度な国際的視野を有し、世界水準の研究成果を発信し、化学、応用化学、あるいは生命科学に関わる高度専門分野を牽引して新たな価値の創成のために貢献しようとする人

機械科学系プログラム

機械科学系プログラムでは、機械工学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考によって、科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人、研究者、あるいは起業家人材を養成するため、課題に対して自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求める。

1. 機械工学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考を身につけ、明確な問題意識をもって自立して研究を遂行し、技術の進歩並びに知の深化及び総合化に努めるなど高度専門的な職業に従事できる卓越した能力を修得しようとする人
2. 研究遂行に関わる高い倫理観と強固な責任感を有し、機械工学分野に関する深い知識と広範な応用力や展開力、独自の発想力や豊かな創造力をもって、他者と協働して地域と国際社会の発展のために高度に貢献しようとする人
3. 高度な国際的視野を有し、世界水準の研究成果を発信し、機械工学に関わる高度専門分野を牽引して新たな価値の創成のために貢献しようとする人

電気電子物理科学系プログラム

電気電子物理科学系プログラムでは、電気電子工学、あるいは物理学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考によって、科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人、研究者、あるいは起業家人材を養成するため、課題に対して自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求める。

1. 電気電子工学、あるいは物理学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考を身につけ、明確な問題意識をもって自立して研究を遂行し、技術の進歩並びに知の深化及び総合化に努めるなど高度専門的な職業に従事できる卓越した能力を修得しようとする人
2. 研究遂行に関わる高い倫理観と強固な責任感を有し、電気電子工学、あるいは物理学分野に関する深い知識と広範な応用力や展開力、独自の発想力や豊かな創造力をもって、他者と協働して地域と国際社会の発展のために高度に貢献しようとする人
3. 高度な国際的視野を有し、世界水準の研究成果を発信し、電気電子工学、物理学に関わる高度専門分野を牽引して新たな価値の創成のために貢献しようとする人

知能情報・数理科学系プログラム

知能情報・数理科学系プログラムでは、情報工学、知能工学、あるいは数理科学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考によって、科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人、研究者、あるいは起業家人材を養成するため、課題に対して自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求める。

1. 情報工学・知能工学・数理科学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考を身につけ、明確な問題意識をもって自立して研究を遂行し、技術の進歩並びに知の深化及び総合化に努めるなど高度専門的な職業に従事できる卓越した能力を修得しようとする人
2. 研究遂行に関わる高い倫理観と強固な責任感を有し、情報工学、知能工学、あるいは数理科学分野に関する深い知識と広範な応用力や展開力、独自の発想力や豊かな創造力をもって、他者と協働して地域と国際社会の発展のために高度に貢献しようとする人
3. 高度な国際的視野を有し、世界水準の研究成果を発信し、情報工学・知能工学・数理科学に関わる高度専門分野を牽引して新たな価値の創成のために貢献しようとする人

生物資源学系プログラム

生物資源学系プログラムでは、生物資源学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考によって、科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人、研究者、あるいは起業家人材を養成するため、課題に対して自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求める。

1. 生物資源学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考を身につけ、明確な問題意識をもって自立して研究を遂行し、技術の進歩並びに知の深化及び総合化に努めるなど高度専門的な職業に従事できる卓越した能力を修得しようとする人
2. 研究遂行に関わる高い倫理観と強固な責任感を有し、生物資源学分野に関する深い知識と広範な応用力や展開力、独自の発想力や豊かな創造力をもって、他者と協働して地域と国際社会の発展のために高度に貢献しようとする人
3. 高度な国際的視野を有し、世界水準の研究成果を発信し、生物資源学に関わる高度専門分野を牽引して新たな価値の創成のために貢献しようとする人

光科学系プログラム

光科学系プログラムでは、光科学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考によって、科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人、研究者、あるいは起業家人材を養成するため、課題に対して自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求める。

1. 光科学に関する高度な専門知識・技能と分野横断的な多角的視点に基づいた論理的思考を身につけ、明確な問題意識をもって自立して研究を遂行し、技術の進歩並びに知の深化及び総合化に努めるなど高度専門的な職業に従事できる卓越した能力を修得しようとする人
2. 研究遂行に関わる高い倫理観と強固な責任感を有し、光科学分野に関する深い知識と広範な応用力や展開力、独自の発想力や豊かな創造力をもって、他者と協働して地域と国際社会の発展のために高度に貢献しようとする人
3. 高度な国際的視野を有し、世界水準の研究成果を発信し、光科学に関わる高度専門分野を牽引して新たな価値の創成のために貢献しようとする人

【一 般 入 試】

1 募集人員

専 攻	プログラム	募集人員
創成科学専攻	社会基盤システムプログラム	若干人
	化学生命工学系プログラム	
	機械科学系プログラム	
	電気電子物理科学系プログラム	
	知能情報・数理科学系プログラム	
	生物資源学系プログラム	
	光科学系プログラム	

(注) 募集人員の中には、社会人特別入試の若干人及び外国人留学生特別入試の若干人を含みます。

2 出 願 資 格

出願することができる者は、次のいずれか一つに該当する者としてします。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び2026（令和8）年3月31日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2026（令和8）年3月31日までに取得見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2026（令和8）年3月31日までに取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2026（令和8）年3月31日までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により上記(1)に規定する者と同等以上の学力があると認めた者で、2026（令和8）年3月31日までに24歳に達する者

出願資格(7)、(8)の認定について

- 1 出願資格(7)に定める「文部科学大臣の指定した者」の範囲は、次の①及び④の要件を満たす者であること。

出願資格(8)に定める「修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者」の範囲は、次の②又は③及び④の要件を満たす者であること。

- ① 大学を卒業し、又は学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者であること。
- ② 大学を卒業し、又は学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された後、科学・技術・地域・環境・心理臨床・医療関係分野で2年以上の業務経験があること。
- ③ 短期大学、高等専門学校、専修学校及び各種学校の卒業後又はその他の教育施設の修了後、大学、企業及び公設の研究所等において4年以上研究に従事するか、又は科学・技術・地域・環境・心理臨床・医療関係分野で4年以上の業務経験があること。
- ④ 著書、学術論文、学術講演、学術報告及び特許等において修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

※①②③の研究従事・業務経験期間には、入学時までの期間を算入することができる。(出願時点で当該要件を満たさない場合は、入学後に証明書等の追加提出を求める場合があります。)

- 2 出願書類は、本研究科において入学試験出願資格認定審査が終了するまで、その受理を保留します。

該当する志願者は、「最終学歴の卒業証明書」及び「入学試験出願資格認定審査調書」(本研究科所定の用紙)及び「研究業績調書」(本研究科所定の用紙)に論文の別刷等を添付し、2026(令和8)年1月5日(月)までに総合科学部事務課学務係に提出してください。

3 入学者の選抜方法

(1) 選 抜 方 法

入学者の選抜は、口述試験及び書類審査の結果を総合して行います。

(2) 検査科目、試験日時及び場所

プログラム	1月29日(木)		場 所
	科 目	時 間	
社会基盤システムプログラム	英語(注3)・口述試験	9:00～	徳島大学 常三島キャンパス (徳島市南常三島町) 試験室等については、 別途通知します。
化学生命工学系プログラム			
機械科学系プログラム			
電気電子物理科学系プログラム			
知能情報・数理科学系プログラム			
生物資源学系プログラム			
光科学系プログラム			

(注1) 口述試験の内容

口述試験は、志望する研究分野に関連する科目、修士論文(修士課程修了見込みの者については修士論文研究の進捗状況)、研究業績調書、研究計画書等の内容について行います。

社会基盤システムプログラム(学術)は口頭発表を含みます(15分程度)。

化学生命工学系プログラム(工学)及び生物資源学系プログラム(農学)の口述試験は、「これまでの研究内容と入学後の研究計画」について、パワーポイントで資料を作成し、プレゼンテーションを行います(20分程度)。それに加えて、英語で研究計画概要のスライド(2枚)を作成し、このスライドを使用して、英語で説明を行います。

(注2) 口述試験の時間

口述試験の開始時間については別途通知します。

(注3) 英語は、口述試験で行いますが、TOEIC 又は TOEFL の成績通知書を提出した場合にはこれを免除することがあります。

(注4) 天候等の理由により実施日時を変更する場合があります。

(注5) オンライン受験が可能な場合があります。詳細は研究指導を希望する教員と相談してください。

4 配 点

プログラム	英 語	口述試験	書類審査
社会基盤システムプログラム (学術)	100	100	100
社会基盤システムプログラム (工学)			
化 学 生 命 工 学 系 プ ロ グ ラ ム			
機 械 科 学 系 プ ロ グ ラ ム			
電 気 電 子 物 理 科 学 系 プ ロ グ ラ ム			
知能情報・数理科学系プログラム			
生 物 資 源 学 系 プ ロ グ ラ ム			
光 科 学 系 プ ロ グ ラ ム			

5 合否判定基準

プログラム	合否判定基準
社会基盤システムプログラム (学術)	総合計が基準点（6割）を満たした場合、合格とします。 ※ TOEIC または TOEFL の成績通知書を提出した場合には英語を免除することがある。
社会基盤システムプログラム (工学)	
化 学 生 命 工 学 系 プ ロ グ ラ ム	
機 械 科 学 系 プ ロ グ ラ ム	
電 気 電 子 物 理 科 学 系 プ ロ グ ラ ム	
知能情報・数理科学系プログラム	
生 物 資 源 学 系 プ ロ グ ラ ム	
光 科 学 系 プ ロ グ ラ ム	

6 障がいのある入学志願者との事前相談

受験上及び修学上で配慮を必要とする場合は、次のとおり総合科学部事務課学務係に申し出てください。

(1) 時 期

2026（令和8）年1月5日(月)まで

(注) 受験上及び修学上の配慮の方法等を検討する必要がありますので、できるだけ早い時期に相談してください。

(2) 方 法

次の①～⑧を記載した書類（様式は任意）を提出してください。

- ① 氏名，生年月日
- ② 志望プログラム
- ③ 現住所，電話番号及び保護者の連絡先
- ④ 障がいの種類，程度（後日，健康診断書の提出を依頼する場合があります。）
- ⑤ 受験の際に配慮を希望する事項及び内容
- ⑥ 修学の際に配慮を希望する事項及び内容
- ⑦ 出身学校在学中にとられていた配慮及び出身学校名
- ⑧ 日常生活の状況等

7 出願手続

(1) 願書受付期間及び出願方法

① 願書受付期間

2026（令和8）年1月14日(水)から 2026（令和8）年1月20日(火)（17時必着）

② 出願方法

【持参の場合】

受付時間：平日9時～17時まで（ただし，12時～13時を除きます。）

受付場所：徳島大学総合科学部事務課学務係

【郵送の場合】

宛 先：〒770－8502 徳島市南常三島町1丁目1番地

徳島大学総合科学部事務課学務係

電話 088－656－7108 Fax 088－656－9314

郵送の場合は，出願受付期間までに必着です。出願受付期間を過ぎて到着した出願書類は受理しませんので，郵送期間を十分考慮のうえ，送付してください。

出願書類等は本募集要項添付の封筒を使用してください。

なお，郵送の際は，必ず「簡易書留・速達」で送付してください。

③ 募集要項の請求

願書を郵便で請求する場合は，あて名を明記し，510円切手を貼った返信用封筒（角2封筒 33.2cm×24.0cm）を同封してください。

④ 出願手続き等に不明の点がある場合は，総合科学部事務課学務係に照会してください。

(2) 出願書類等

書類等の種別	該 当 者	記入方法, 注意事項等
入 学 志 願 票 受 験 票, 写 真 票	全 員	所定の用紙に必要事項を記入してください。受験票及び写真票には上半身, 脱帽, 正面向きで同一の写真(縦4 cm×横3 cm, 最近撮影した本人確認が可能なもの)を貼ってください。
修了(見込)証明書	本学研究科又は本学教育部博士前期課程修了者及び修了見込者	不要。
	上 記 以 外	必要。出身大学長(研究科長)が作成した修士課程修了証明書。ただし, 2026(令和8)年3月修了見込みの者は, 修士課程修了見込み証明書が必要。
成 績 証 明 書 (学部及び大学院)	全 員	出身大学長(学部長及び研究科長)が作成し, 厳封したもの。
修士学位論文要旨	全 員	所定の用紙に, 2,000字以内で記入してください。ただし, 修士課程修了見込みの者は, 修士論文の研究題目とその研究の進捗状況について要約してください。なお, 関連した論文の別刷又は学術講演, 特許等がある場合は, そのコピーを添付してください。
研 究 業 績 調 書	修士論文に関連したものの他に研究業績を有する者	修士論文に関連したものの他に研究業績を有する者は, 所定の用紙(本学生募集要項とじ込み)に, 著書, 学術論文, 学術講演, 学術報告, 特許及び実用新案等社会における研究活動状況を示すものを記入してください。なお, 関連した論文の別刷等の資料を添付してください。
研 究 計 画 書	全 員	研究を希望するテーマあるいは分野について, その目的及び構想を, 研究指導を希望する教員と相談の上, 所定の用紙に, 1,000字以内で 記入してください。
推 薦 書	任 意	所定の用紙に必要事項を記入した上, 原則として出身大学の指導教員が作成し, 厳封したもの。
口 頭 発 表 資 料	社会基盤システムプログラム(学術)出願者	A4版2枚以内で, 自分の研究テーマに関わる内容の口頭発表用資料を5部(様式自由, カラー刷り可)作成し提出してください。
プレゼンテーションデータとそのPDFデータ	化学生命工学系プログラム(工学)及び生物資源学系プログラム(農学)出願者	「これまでの研究内容と入学後の研究計画」について作成したパワーポイントデータ及びそのPDFデータ, 英語で作成した研究計画概要のスライド(2枚)データとそのPDFデータを研究指導を希望する教員にメールで提出してください。提出期限は研究指導を希望する教員に確認してください。

書類等の種別	該 当 者	記入方法, 注意事項等
TOEIC「公式認定証」 又は TOEIC「デジタル 公式認定証」又は TOEFL「受験者用控え スコアレポート」又は TOEFL「公式スコアレ ポート」等	任 意	TOEIC は"Official Score Certificate ("公式認定証), TOEFL は"Test Taker Score Report (又は Examinee Score Report)" (受験者用控えスコアレポート) 又は "Official Score Reports" (公式スコアレポート) の原 本を出願時に提出するものとし, 団体受験用の TOEIC (IP) 及び TOEFL (ITP) のスコアは受け付けま せん。TOEIC の公式認定証は「TOEIC® Listening & Reading Test」又は「TOEIC®テスト」に限りま す。TOEIC® Speaking & Writing Tests, TOEIC® Speaking Test, TOEIC® Writing Test, TOEIC Bridge® Test 及び団体受験用 (IP) の公式認定証は受け付け ません。TOEFL は自宅受験 TOEFL iBT® テスト (TOEFL iBT® Home Edition) のスコアレポートも 出願書類として認めます。社会基盤システムプロ グラム (工学) 及び機械科学系プログラムは, 出願時 において 2 年前までの日付を有効期限とします。 ※ 2 0 2 4 年度以降に TOEIC Listening & Reading 公開テストを受験された場合は, "Official Score Certificate" (デジタル公式認定証) をプリントアウト して提出してください。
受 験 許 可 書	現に大学院博士後期課程 に在籍中の者	所定の用紙に所属長の許可を得て提出。
検定料払込証明書	・ 本学研究科又は教育部 の修士課程又は博士前 期課程を修了し, 引き 続き本課程に進学する 者 ・ 外国人志願者のうち日 本政府 (文部科学省) 国費留学生	不要。
	上 記 以 外	検定料は 3 0, 0 0 0 円です。所定の用紙によ り, 検定料を最寄りのゆうちょ銀行又は郵便 局窓口から払い込んでください。ゆうちょ銀行 又は郵便局で検定料払込時に受領した「検定料 払込 証明書 (出願用)」を, 「検定料払込証明書 (本学所定)」に貼って提出してください。
あ て 名 票	全 員	所定の用紙に必要事項を記入してください。
受験票送付用封筒	全 員	所定の封筒に, 受領する場所の郵便番号, 住所, 氏名を明記し, 4 1 0 円分の郵便切手を所定の 箇所に貼ってください。

(注) 出願資格(7), (8)に該当する者は, 「修了 (見込) 証明書」, 「大学院成績証明書」 及び「修士
学位論文要旨」を提出しなくてかまいません。また, 「研究業績調書」も 既に提出済のため, 再
提出しなくてかまいません。

(3) 出願に際しての注意

- ① 願書受付期間を過ぎて到着した出願書類は受理しません。郵送期間を十分考慮のうえ、送付してください。
- ② 出願書類等に不備がある場合は、受理しません。また、出願後は、原則として記載事項の変更を認めません。
- ③ 入学志願票等の出願書類の記入ミスは訂正印で訂正してください。修正液・修正テープでの訂正は受付不可です。また、入学志願票等の出願書類には「消せるボールペン」や鉛筆・シャープペンシルなどの訂正が容易にできる筆記用具は使用しないでください。
- ④ 出願書類を受け付けた受験者に対しては、後日試験室の案内とともに受験票を送付します。
- ⑤ 受理した出願書類及び入学検定料は、原則として返還しません。
- ⑥ 出願書類に虚偽の記載をした者及びその他不正な事実が判明した者については、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- ⑦ 出願後、「合格通知送付先」に変更があった場合には、速やかに連絡してください。
- ⑧ 中国の高等教育機関を卒業し、本学研究生等に在籍経験のない出願者は、学歴証明をオンラインで確認しますので、中国高等教育学生情報網 (<http://www.chsi.com.cn>) で照会番号を取得し、願書に記載してください。
- ⑨ TOEFL DI Code は、「D013」です。
- ⑩ 出願書類のうち、「入学志願票（履歴書）」「修士学位論文要旨」「研究業績調書」「研究計画書」「推薦書」は HP から様式をダウンロードして使用することができます。

8 合格者の発表

合格者の受験番号を次のとおり発表するとともに、合格者あてに文書で通知します。

なお、電話等による合否の問い合わせには応じられません。

発 表 日 時	発 表 方 法
2026（令和8）年2月20日（金） 11時	ホームページにて掲載 https://www.sti.tokushima-u.ac.jp/

入学許可の取消し

合格者が、入学手続き完了後に、見込まれていた入学資格を取得できなかった場合等には、入学許可を取り消します。

9 入学手続

入学手続の必要書類については、2026（令和8）年2月下旬に本人あてに通知します。

授業料等学生納付金

- (1) 入 学 料 282,000 円

ただし、本学大学院研究科等の博士前期課程を修了し、引き続き本課程に進学する者及び外国人志願者のうち日本政府（文部科学省）国費留学生は不要。

- | | | |
|---------|-----|-----------|
| (2) 授業料 | 前期分 | 267,900 円 |
| | 年 額 | 535,800 円 |

ただし、外国人志願者で日本政府（文部科学省）国費留学生は不要。

(注1) 入学料及び授業料は現行の金額であり、改定されれば改定金額が適用されます。

(注2) 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

(注3) 授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に、後期分も合わせて納付できます。

(注４) 入学料、授業料とも経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業が優秀と認められる者又は風水害等の特別な事情がある者は、選考の上、全額又は半額の免除が認められる制度があります。

- (3) その他の経費として後援会費、学生教育研究災害傷害保険料等若干の経費が必要です。

10 個人情報の取扱い

- (1) 出願書類等に記載された氏名、生年月日、その他の個人情報については次の目的をもって、本学が管理します。
 - ① 入学者選抜、合格通知及び入学手続等の入試業務
 - ② 合格者の入学後の教務関係（学籍管理、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、奨学金援助、就職支援等）、授業料等に関する業務
- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試結果の集計、分析及び入学者選抜方法の調査、研究（入試の改善や志願動向の調査、分析等）のために利用します。

11 安全保障輸出管理について

徳島大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「徳島大学安全保障輸出管理規則」を定めて、物品の輸出、技術の提供、人材の交流の観点から学生の受入れに関して、厳格な審査を実施しています。規制されている事項に該当する場合は、希望する研究活動に制限がかかる場合や、教育が受けられない場合があります。願書の提出の前に指導教員予定者と相談をするなど、出願にあたっては注意してください。

詳細については以下の研究支援・産官学連携センターのホームページを参照してください。

<https://www.tokushima-u.ac.jp/ccr/active/ip/yusyutsukanri/yusyutsu.html>

【社会人特別入試】

本研究科においては、官公庁、企業等に勤務している社会人の高等教育への要望に対応し、開かれた研究科として社会に役立つ研究と技術開発の推進を図るため、本研究科に社会人を受け入れることを実施しています。

1 募集人員

専攻	プログラム	募集人員
創成科学専攻	社会基盤システムプログラム	若干人
	化学生命工学系プログラム	
	機械科学系プログラム	
	電気電子物理科学系プログラム	
	知能情報・数理科学系プログラム	
	生物資源学系プログラム	
	光科学系プログラム	

2 出願資格

下記のいずれか一つに該当し、各種の研究機関、教育機関、企業等に入学時まで原則として1年以上正規職員として勤務している研究者又は技術者で、入学後もその身分を有し、所属長より推薦を受けた者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び2026（令和8）年3月31日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2026（令和8）年3月31日までに取得見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2026（令和8）年3月31日までに取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2026（令和8）年3月31日までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者

と同等以上の学力があると認められた者

(7) 文部科学大臣の指定した者

(8) 本研究科において、個別の入学資格審査により上記(1)に規定する者と同等以上の学力があると認めた者で、2026（令和8）年3月31日までに24歳に達する者

出願資格(7)、(8)の認定について

1 出願資格(7)に定める「文部科学大臣の指定した者」の範囲は、次の①及び④の要件を満たす者であること。

出願資格(8)に定める「修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者」の範囲は、次の②又は③及び④の要件を満たす者であること。

① 大学を卒業し、又は学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者であること。

② 大学を卒業し、又は学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された後、科学・技術・地域・環境・心理臨床・医療関係分野で2年以上の業務経験があること。

③ 短期大学、高等専門学校、専修学校及び各種学校の卒業後又はその他の教育施設の修了後、大学、企業及び公設の研究所等において4年以上研究に従事するか、又は科学・技術・地域・環境・心理臨床・医療関係分野で4年以上の業務経験があること。

④ 著書、学術論文、学術講演、学術報告及び特許等において修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

※①②③の研究従事・業務経験期間には、入学時までの期間を算入することができる。（出願時点で当該要件に満たない場合は、入学後に証明書等の追加提出を求める場合があります。）

2 出願書類は、本研究科において入学試験出願資格認定審査が終了するまで、その受理を保留します。

該当する志願者は、「最終学歴の卒業証明書」及び「入学試験出願資格認定審査調書」（本研究科所定の用紙）及び「研究業績調書」（本研究科所定の用紙）に論文の別刷等を添付し、2026（令和8）年1月5日(月)までに総合科学部事務課学務係に提出してください。

3 入学者の選抜方法

(1) 選抜方法

入学者の選抜は、口述試験及び書類審査の結果を総合して行います。

(2) 検査科目，試験日時及び場所

プログラム	1月29日(木)		場 所
	科 目	時 間	
社会基盤システムプログラム	口述試験	9:00～	徳島大学 常三島キャンパス (徳島市南常三島町) 試験室等については、 別途通知します。
化学生命工学系プログラム			
機械科学系プログラム			
電気電子物理科学系プログラム			
知能情報・数理科学系プログラム			
生物資源学系プログラム			
光科学系プログラム			

(注1) 口述試験の内容

修士論文，研究業績調書，志望理由書，研究計画書等の内容について行います。

社会基盤システムプログラム(学術)は口頭発表を含みます(15分程度)。

化学生命工学系プログラム(工学)及び生物資源学系プログラム(農学)の口述試験は、「これまでの研究内容と入学後の研究計画」について，パワーポイントで資料を作成し，プレゼンテーションを行います(20分程度)。

(注2) 口述試験の時間及び試験室

口述試験の開始時間及び試験室については別途通知します。

(注3) 天候等の理由により実施日時を変更する場合があります。

(注4) オンライン受験が可能な場合があります。詳細は研究指導を希望する教員と相談してください。

4 配 点

プログラム	口述試験	書類審査
社会基盤システムプログラム (学術)	100	100
社会基盤システムプログラム (工学)		
化学生命工学系プログラム		
機械科学系プログラム		
電気電子物理科学系プログラム		
知能情報・数理科学系プログラム		
生物資源学系プログラム		
光科学系プログラム		

5 合否判定基準

プログラム	合否判定基準
社会基盤システムプログラム（学術）	総合計が基準点（6割）を満たした場合、合格とします。
社会基盤システムプログラム（工学）	
化 学 生 命 工 学 系 プ ロ グ ラ ム	
機 械 科 学 系 プ ロ グ ラ ム	
電 気 電 子 物 理 科 学 系 プ ロ グ ラ ム	
知能情報・数理科学系プログラム	
生 物 資 源 学 系 プ ロ グ ラ ム	
光 科 学 系 プ ロ グ ラ ム	

6 障がいのある入学志願者との事前相談

受験上及び修学上で配慮を必要とする場合は、次のとおり総合科学部事務課学務係に申し出てください。

(1) 時 期

2026（令和8）年1月5日（月）まで

（注）受験上及び修学上の配慮の方法等を検討する必要がありますので、できるだけ早い時期に相談してください。

(2) 方 法

次の①～⑧を記載した書類（様式は任意）を提出してください。

- ① 氏名、生年月日
- ② 志望プログラム
- ③ 現住所、電話番号及び保護者の連絡先
- ④ 障がいの種類、程度（後日、健康診断書の提出を依頼する場合があります。）
- ⑤ 受験の際に配慮を希望する事項及び内容
- ⑥ 修学の際に配慮を希望する事項及び内容
- ⑦ 出身学校在学中にとられていた配慮及び出身学校名
- ⑧ 日常生活の状況等

7 出 願 手 続

(1) 願書受付期間及び出願方法

① 願書受付期間

2026（令和8）年1月14日（水）から2026（令和8）年1月20日（火）（17時必着）

② 出願方法

【持参の場合】

受付時間：平日9時～17時まで（ただし、12時～13時を除きます。）

受付場所：徳島大学総合科学部事務課学務係

【郵送の場合】

宛 先：〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1番地

徳島大学総合科学部事務課学務係

電話 088-656-7108 Fax 088-656-9314

郵送の場合は、出願受付期間までに必着です。出願受付期間を過ぎて到着した出願書類は受理しませんので、郵送期間を十分考慮のうえ、送付してください。

出願書類等は本募集要項添付の封筒を使用してください。

なお、郵送の際は、必ず「簡易書留・速達」で送付してください。

③ 募集要項の請求

願書を郵便で請求する場合は、あて名を明記し、510円切手を貼った返信用封筒(角2封筒33.2 cm×24.0 cm)を同封してください。

④ 出願手続き等に不明の点がある場合は、総合科学部事務課学務係に照会してください。

(2) 出願書類等

書類等の種別	該 当 者	記入方法, 注意事項等
入 学 志 願 票 受 験 票	全 員	所定の用紙に必要事項を記入してください。入学志願票及び受験票には上半身, 脱帽, 正面向きで同一の写真(縦4 cm×横3 cm, 最近撮影した本人確認が可能なもの)を貼ってください。
修了(見込)証明書	本研究科・本教育部博士前期課程修了者及び修了見込者	不要。
	上 記 以 外	必要。出身大学長(研究科長)が作成した修士課程修了証明書。ただし, 2026(令和8)年3月修了見込みの者は, 修士課程修了見込み証明書が必要。
成 績 証 明 書 (学部及び大学院)	全 員	出身大学長(学部長及び研究科長)が作成し, 厳封したもの。
修士学位論文要旨	全 員	所定の用紙に, 2,000字以内で記入してください。なお, 関連した論文の別刷又は学術講演, 特許等がある場合は, そのコピーを添付してください。
研 究 業 績 調 書	修士論文に関連したものの他に研究業績を有する者	修士論文に関連したものの他に研究業績を有する者は, 所定の用紙(本学生募集要項とじ込み)に, 著書, 学術論文, 学術講演, 学術報告, 特許及び実用新案等社会における研究活動状況を示すものを記入してください。なお, 関連した論文の別刷等の資料を添付してください。
研 究 計 画 書	全 員	研究を希望するテーマあるいは分野について, その目的及び構想を, 研究指導を希望する教員と相談の上, 所定の用紙に, 10,000字以内で記入してください。

書類等の種別	該 当 者	記入方法, 注意事項等
口 頭 発 表 資 料	社会基盤システムプログラム (学術) 出願者	A 4 版 2 枚以内で, 自分の研究テーマに関わる内容の口頭発表用資料を 5 部 (様式自由, カラー刷り可) 作成し提出してください。
プレゼンテーションデータとその PDF データ	化学生命工学系プログラム (工学) 及び生物資源学系プログラム (農学) 出願者	「これまでの研究内容と入学後の研究計画」について作成したパワーポイントデータ及びその PDF データを研究指導を希望する教員にメールで提出してください。提出期限は研究指導を希望する教員に確認してください。
推 薦 書	勤務先で所属長の職にある者以外	所定の用紙に, 勤務先の所属長又はこれに準ずる者が作成し, 厳封したもの 。
志 望 理 由 書	全 員	所定の用紙に, 本研究科に入学し, 勉学, 研究を行いたいと考えた動機及び目的を, 所定の用紙に, 1,000 字以内で記入してください。
受 験 許 可 書	勤務先で所属長の職にある者以外	所定の用紙に勤務先の所属長 (又はこれに準ずる者) の許可を得て提出してください。
検 定 料 払 込 証 明 書	・ 本学研究科又は教育部の修士課程又は博士前期課程を修了し, 引き続き本課程に進学する者 ・ 外国人志願者のうち日本政府 (文部科学省) 国費留学生	不要。
	上 記 以 外	検定料は 30,000 円です。所定の用紙により, 検定料を最寄りの <u>ゆうちょ銀行</u> 又は <u>郵便局窓口</u> から払い込んでください。ゆうちょ銀行又は郵便局で検定料払込時に受領した「検定料払込証明書 (出願用)」を, 「検定料払込証明書 (本学所定)」に貼って提出してください。
あ て 名 票	全 員	所定の用紙に必要事項を記入してください。
受験票送付用封筒	全 員	所定の封筒に, 受領する場所の郵便番号, 住所, 氏名を明記し, 410 円分 の郵便切手を所定の箇所に貼ってください。

(注) 出願資格(7), (8)に該当する者は, 「修了(見込)証明書」, 「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」を提出しなくてかまいません。また, 「研究業績調書」も既に提出済のため, 再提出しなくてかまいません。

(3) 出願に際しての注意

- ① 願書受付期間を過ぎて到着した出願書類は受理しません。郵送の場合は郵送期間を十分考慮のうえ、送付してください。
- ② 出願書類等に不備がある場合は、受理しません。また、出願後は、原則として記載事項の変更を認めません。
- ③ 入学志願票等の出願書類の記入ミスは訂正印で訂正してください。修正液・修正テープでの訂正は受付不可です。また、入学志願票等の出願書類には「消せるボールペン」や鉛筆・シャープペンシルなどの訂正が容易にできる筆記用具は使用しないでください。
- ④ 出願書類を受け付けた受験者に対しては、後日試験室の案内とともに受験票を送付します。
- ⑤ 受理した出願書類及び入学検定料は、原則として返還しません。
- ⑥ 出願書類に虚偽の記載をした者及びその他不正な事実が判明した者については、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- ⑦ 出願後、「合格通知送付先」に変更があった場合には、速やかに連絡してください。
- ⑧ 出願書類のうち、「入学志願票（履歴書）」「修士学位論文要旨」「研究業績調書」「研究計画書」「推薦書」「志望理由書」は HP から様式をダウンロードして使用することができます。

8 合格者の発表

合格者の受験番号を次のとおり発表するとともに、合格者あてに文書で通知します。

なお、電話等による可否の問い合わせには応じられません。

発 表 日 時	発 表 方 法
2026（令和8）年2月20日(金) 11時	ホームページにて掲載 https://www.sti.tokushima-u.ac.jp/

入学許可の取消し

合格者が、入学手続き完了後に、見込まれていた入学資格を取得できなかった場合等には、入学許可を取り消します。

9 入 学 手 続

入学手続きの必要書類については、2026（令和8）年2月下旬に本人あてに通知します。

授業料等学生納付金

- (1) 入 学 料 282,000 円

ただし、本学研究科又は教育部の修士課程又は博士前期課程を修了し、引き続き本課程に進学する者及び外国人志願者のうち日本政府（文部科学省）国費留学生は不要。

- (2) 授 業 料 前期分 267,900 円
 年 額 535,800 円

(注 1) 入学料及び授業料は現行の金額であり、改定されれば改定金額が適用されます。

(注 2) 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

(注 3) 授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に、後期分も合わせて納付できます。

(注 4) 入学料、授業料とも経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業が優秀と認められる者又は風水害等の特別な事情がある者は、選考の上、全額又は半額の免除が認められる制度があります。

- (3) その他の経費として後援会費、学生教育研究災害傷害保険料等若干の経費が必要です。

10 個人情報の取扱い

- (1) 出願書類等に記載された氏名、生年月日、その他の個人情報については次の目的をもって、本学が管理します。

① 入学者選抜、合格通知及び入学手続等の入試業務

② 合格者の入学後の教務関係（学籍管理、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、奨学金援助、就職支援等）、授業料等に関する業務

- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試結果の集計、分析及び入学者選抜方法の調査、研究（入試の改善や志願動向の調査、分析等）のために利用します。

11 学修と研究及び教育方法の特例について

学修と研究について

入学後は学則に定められた教育課程に基づき、原則として教育部担当教員の指導の下で、学修と研究に専念するものとします。

なお、入学後の身分（現職、休職）は、当該官公庁・企業等の定めるところによることとし、プログラムによっては、勤務地等が通学可能距離にある場合、昼夜開講等弾力的に対処する場合もあります（下記の特例による教育参照）。また、博士論文を作成する場合、指導教員の許可を受け、かつ、その指導の下で、勤務先での研究課題を取り上げ、その設備、機器等を使用して研究を行うことも場合により可能です。

大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例による教育について

通常、官公庁・企業等において勤務している社会人研究者・技術者が博士後期課程で学ぶ場合、3 年間完全に勤務を離れ、学業に専念することになります。この修学条件を満たすことが難しい社会人学生に対しては、大学院設置基準第 14 条に「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研

究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」ことが規定されているため、この制度を利用して教育方法の特例を実施します。

長期履修学生制度について

学生が職業を有しているなどの事情により、通常の学生に比べて年間に修得できる単位数が限られるため、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する者に対して、申請に基づき、大学が審査し、その長期にわたる計画的な履修を認め、その在学期間中の授業料の負担を軽減することができる制度です。詳細は指導教員に照会してください。

12 安全保障輸出管理について

徳島大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「徳島大学安全保障輸出管理規則」を定めて、物品の輸出、技術の提供、人材の交流の観点から学生の受入れに関して、厳格な審査を実施しています。規制されている事項に該当する場合は、希望する研究活動に制限がかかる場合や、教育が受けられない場合があります。願書の提出の前に指導教員予定者と相談をするなど、出願にあたっては注意してください。

詳細については以下の研究支援・産官学連携センターのホームページを参照してください。

<https://www.tokushima-u.ac.jp/ccr/active/ip/yusyutsukanri/yusyutsu.html>

創成科学研究科の概要

1 創成科学研究科の構成

本研究科の博士後期課程は創成科学専攻 1 専攻，7つのプログラムで構成されています。

創成科学研究科博士後期課程 創成科学専攻



プログラム	学位及び専攻分野
社会基盤システムプログラム	博士（学術）または博士（工学）
化学生命工学系プログラム	博士（工学）
機械科学系プログラム	博士（工学）
電気電子物理科学系プログラム	博士（工学）
知能情報・数理科学系プログラム	博士（工学）
生物資源学系プログラム	博士（農学）
光科学系プログラム	博士（工学）

2 プログラムの概要

【社会基盤システムプログラム】

社会基盤システムプログラムでは中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、社会基盤分野や社会・人間科学に関する最新の基盤技術・基幹技術・先端技術を理解し、グローバルな視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

概 要	研究指導教員	学位に付記する専攻分野 (願書記入時の学位の分野)
犯罪被害や被災等のトラウマ体験と精神的健康に関する臨床心理学的研究	教 授 内海 千種	学術
日本, 東アジア地域の民俗文化の形態や構造, 変化に関する文化人類学・民俗学的分析	教 授 高橋 晋一	学術
自律的まちづくりのプロセスデザイン	教 授 田口 太郎	学術または工学
生活習慣病／介護予防に関連した運動・リハビリテーションの考案	教 授 三浦 哉	学術
持続可能な地域社会形成のために, 参与観察やアクションリサーチを通じての都市社会学や地域社会学的視点からの実証分析の研究	教 授 矢部 拓也	学術
臨床心理学, 情報学, および認知神経科学のアプローチを融合した心身の健康増進に寄与する手法の開発	教 授 山本 哲也	学術
臨床発達心理学および応用行動分析の理論と実践を基盤にした, 障がいのある方の生活の質向上と支援者の負担軽減を目的とした行動支援システムの開発と社会実装	准教授 榎本 拓哉	学術
情報通信技術の市計画／建築計画への適用研究	准教授 掛井 秀一	学術
ガバナンス時代における政府の役割と機能, および政府と市民社会との関係性に関する政策分析	准教授 小田切康彦	学術
ストレス, メンタルヘルスに関する生理心理学研究	准教授 津村 秀樹	学術
環境と人間の関係に関する人類学的な視点や方法論に基づく実証的な研究やその応用・社会実装	准教授 内藤 直樹	学術
身体疾患患者および医療従事者の精神的健康の維持・回復に向けた介入法開発	准教授 福森 崇貴	学術
情報工学の手法を用いた心理現象の解明	准教授 横谷 謙次	学術
運動生理生化学的手法を用いた栄養素の機能解析と実践応用	准教授 羅 成圭	学術
病者・障害者による当事者活動への社会学的アプローチ	准教授 渡邊 克典	学術
テクトニクス, 構造地質学, 海嶺沈み込みと火成作用, 付加体発達史	教 授 安間 了	工学

	概 要	研究指導教員	学位に付記する専攻分野 (願書記入時の学位の分野)
	コンクリート構造物の劣化メカニズムとその診断方法, および様々な劣化状態に対して効果的な補修工法や補強工法	教 授 上田 隆雄	工学
	建築計画学分野における建築物の長寿命化を目的とした旧耐震木造住宅の耐震化の推進, 遊休不動産の利活用	教 授 小川 宏樹	工学
	災害にも強く環境的にも持続可能な都市環境形成のための交通現象解析, 都市交通政策評価, 都市構造評価	教 授 奥嶋 政嗣	工学または は学術
*	生態系を活用した地域づくりを行ってゆくための, 生態系の評価・管理手法, 合意形成・協働・ガバナンス等の社会システム分析	教 授 鎌田 磨人	工学または は学術
	里海の環境保全および地域防災に関する研究	教 授 上月 康則	工学または は学術
*	地盤防災・斜面防災分野における新たな予測・解析手法の開発, および災害調査研究に基づく減災対策法の考案	教 授 蔣 景彩	工学
	極端気象下における構造物の動的性能の評価および向上	教 授 野田 稔	工学
	津波発生のメカニズム, 津波の伝播・遡上の物理, 津波被害軽減に関する研究	教 授 馬場 俊孝	工学または は学術
	流況・流砂解析に基づく河道の地形形成プロセスの解明, およびその応用による流域の環境保全と防災に関する河道管理技術の開発	教 授 武藤 裕則	工学または は学術
	非破壊試験およびパターン認識によるコンクリートの品質, 劣化および補修効果の評価	教 授 渡邊 健	工学
	野外調査や偏光顕微鏡観察等に基づく構造地質学的・岩石学的解析, およびその応用による変成作用論や造構運動論	准教授 青矢 睦月	工学
	土質材料の物理的および力学的特性についての理解と, 地盤の変形・破壊に関する防災, 施工, 維持管理	准教授 上野 勝利	工学または は学術
	災害弱者の避難行動における課題解決, 災害時の社会福祉施設におけるリスクマネジメント	准教授 金井 純子	工学または は学術
	森林の水源涵養機能の定量評価手法, 森林域の開発や保全が流域水循環や流域防災に与える影響評価	准教授 田村 隆雄	工学または は学術
	簡易地震計を用いた既存構造物のシステム同定手法の開発, およびその応用による対象地域の構造物のモデル化	准教授 中田 成智	工学
	岩石の風化と, 岩石の風化帯で生じる地すべりに関する応用地質学的研究	准教授 西山 賢一	工学
	都市交通計画のための交通行動・現象分析と交通安全の評価手法に関する研究	准教授 兵頭 知	工学
	鋼構造および複合構造の部材・継手の性能評価および性能向上, 土木・建築構造用締結部品の開発, 新材料の特性分析	准教授 森山 仁志	工学
	沿岸域での持続可能な地域づくりとその社会実装のための, 工学的・社会的な技術の開発	准教授 山中 亮一	工学または は学術
	持続可能なまちを実現するための GIS を活用したデータ分析手法とそれを用いた都市計画, 都市設計手法に関する研究	准教授 渡辺公次郎	工学または は学術

概 要	研究指導教員	学位に付記する専攻分野 (願書記入時の学位の分野)
堆積物および堆積岩の起源と形成プロセスを解明し, それに関わる大気・水圏における物質循環様式を紐解く研究	講 師 齋藤 有	工学
免震・制振建築物および木造建築物の耐震性能評価, 補強工法の開発や地震被害低減手法の提案	講 師 白山 敦子	工学

*印は令和 10 年 3 月末までの退職予定者を示します。

*印が付いた教員は標準年限の全期間を指導できません。

【化学生命工学系プログラム】

化学生命工学系プログラムでは中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、化学工学や生命工学に関する最新の基盤技術・基幹技術・先端技術を理解し、グローバルな視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

概 要	研究指導教員	学位に付記する専攻分野 (願書記入時の学位の分野)
セルロース系バイオマスの有効利用を目指した、エネルギー、マテリアルへの変換工学	教 授 浅田 元子	工学
様々な生物活性を有する有機化合物の分子設計・合成と機能解析	教 授 宇都 義浩	工学
新規有機遷移金属化合物の合成, およびそれらを均一系触媒として利用する新規高選択的分子変換反応の開発	教 授 小笠原正道	工学
赤外分光や放射光分光など光物性の手法による数万気圧から数 10 万気圧の高圧力下における物性研究	教 授 岡村 英一	工学
環境に低負荷の物質生産システムの開発, 微粒子の性質を生かした分離材料および分離プロセスの開発	教 授 加藤 雅裕	工学
光学顕微鏡のその場観察によるタンパク質およびサブミクロン粒子の結晶成長機構の解明, および放射光施設等 X 線結晶構造解析によるタンパク質の分子構造の詳細解析	教 授 鈴木 良尚	工学
機器分析の手法を用いた微量物質の化学計測, 類似化合物の精密分離, 機能性物質の物性に関する分離法・分析法の開発	教 授 高柳 俊夫	工学
微生物由来機能性分子の遺伝子的・構造的・機能的特性の解明, および医薬理工学的应用	教 授 田端 厚之	工学
立体構造やモノマー連鎖などの一次構造の制御されたポリマーを与える重合反応や高分子反応の開発	教 授 平野 朋広	工学
* 発生ゲノム科学分野における種々の内外環境要因間の相互作用の影響, およびそれらに対するゲノム情報の発現制御機能	教 授 真壁 和裕	工学
両親媒性物質の自己組織化集合体が示す構造変化と機能発現	教 授 松木 均	工学
環境分析, 臨床検査, 品質管理における新たな測定原理の創出と, 分析機器・化学計測手法の開発	教授 水口 仁志	工学
機能性有機材料・高分子材料および複合材料の合成と物性ならびに機能性の評価	教 授 南川 慶二	工学
* 新しい反応試剤の開発, 並びに新しい有機合成手法の開発を行うとともに, その知見を基にした新規機能性有機化合物の合成	教 授 三好 徳和	工学
* 放射線化学と光電気化学の手法を用いた機能性ナノ粒子の調製, 放射線および放射性同位元素の高感度検出による放射線エネルギー変換物質の開発	教 授 三好 弘一	工学
機能性無機材料の合成, 熱的・電気的特性の評価, 物性を構造化学的に解明するための X 線分析を主とした結晶構造解析	教 授 村井啓一郎	工学

概 要	研究指導教員	学位に付記する専攻分野 (願書記入時の学位の分野)
無機材料が示す特異な電気的・光学的性質の測定とその特異な性質を発現する無機材料の合成, 結晶構造および電子状態解析	教 授 森賀 俊広	工学
診断／分析／センシング技術の開発につながる脂質の生物学的機能と化学的性質の理解	教 授 山本 圭	工学
セラミックス系材料を中心とした固体触媒の開発, 機能性発現機構解明, 反応速度論, および物理科学計測	教 授 山本 孝	工学
両生類胚をモデル動物とした遺伝子の機能解析についての新しい手法の開発とその応用	教 授 渡部 稔	工学
触媒機能を有する有機分子や高分子材料の設計を中心としたグリーン・サステナブルケミストリーに資する有機合成法の開拓	准教授 荒川 幸弘	工学
環境に配慮した実践的な有機合成反応の開発を中心とした効率的な医薬品および機能性分子の創製, および工業運用可能な反応の開発	准教授 上野 雅晴	工学
細胞核内の染色体高次構造に基づく新たな解析手法の開発および, それによる脊椎動物ゲノムの構造・配列進化における比較オミクス解析	准教授 宇野 好宣	工学
細胞運命を制御する新たな仕組みの解明とセルエンジニアリングへの応用と治療法の開発	准教授 岸本 幸治	工学
高圧力下における脂質ナノ粒子の相転移に関する研究	准教授 後藤 優樹	工学
微生物等の生物制御に資する光と天然由来の様々な有機化合物の機能解析	准教授 白井 昭博	工学
生体由来および非天然型の様々な両親媒性分子が水性環境下で形成する自己組織化膜の構造と物性	准教授 玉井 伸岳	工学
細菌が保有する病原因子や酵素の機能解析, およびそれらの成果の医療や産業への応用	准教授 友安 俊文	工学
環境微生物において, 遺伝情報の伝達に関わる重要なタンパク質と酵素の構造と機能の解明, および微生物材料を利用した応用開発	准教授 平田 章	工学
化学工学, 吸着科学を基礎とした吸着分離に適用する機能性吸着剤の開発および吸着現象の解明	准教授 堀河 俊英	工学
有機化学を基盤とする, 有機エレクトロニクスおよび医薬品への応用を志向した光機能性材料の創製	准教授 八木下史敏	工学
有機化学・物理化学に基づいて, 生体内で機能する独創的な化学プローブの創製とそれらの機能と有効性	准教授 山田 久嗣	工学
液体, 溶液, 超臨界流体中の分子の構造や動態を対象とした, 核磁気共鳴分光法および分子動力学計算による解析手法の開発	准教授 吉田 健	工学
天然物由来の原料を用いた生分解性ポリマーの合成, 生物・医学分野での利用を指向した新規機能性材料の開発	講 師 押村 美幸	工学
有機無機複合新規ナノ構造体の合成と物性に関する研究および電気化学的手法を用いたその機能の開発	講 師 倉科 昌	工学

*印は令和10年3月末までの退職予定者を示します。

*印が付いた教員は標準年限の全期間を指導できません。

【機械科学系プログラム】

機械科学系プログラムでは中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、機械工学に関する最新の基盤技術・基幹技術・先端技術を理解し、グローバルな視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

	概 要	研究指導教員	学位に付記する専攻分野 (願書記入時の学位の分野)
	生産加工分野における新規な手法の研究開発とその成果の応用による革新的な生産加工法の確立	教 授 石田 徹	工学
*	流体流れの層流－乱流遷移の解明と新しい測度の開発	教 授 一宮 昌司	工学
	高効率エネルギー変換技術に関する電気化学デバイス(蓄電池, 燃料電池, 固体照明)を取り上げ, 無機固体材料におけるイオン・電子の 移動現象の解明	教 授 大石 昌嗣	工学
	複雑特性を有する流体の流れ, 気液二相流れ, 相変化を伴う混相流れの解明	教 授 太田 光浩	工学
	結晶粒界や粒界三重線が金属の塑性変形に及ぼす影響	教 授 岡田 達也	工学
	ソフトロボティクスを中心とする柔軟メカニカルシステムの開発と人間支援分野への効果的な運用手法の構築	教 授 高岩 昌弘	工学
*	CT 半導体レーザ吸収法, レーザ誘起ブレイクダウン法などの先端計測法を用いたレーザ応用計測技術の基礎技術開発と産業応用	教 授 出口 祥啓	工学
	数値シミュレーションおよび実験結果に基づく, 燃焼炉における環境汚染物質の発生メカニズムの解明と抑制技術の開発	教 授 名田 譲	工学
	超音波波動理論に基づく材料評価法と非破壊検査手法の開発	教 授 西野 秀郎	工学
	エネルギー変換効率を向上させる熱エネルギーおよびその制御に関する研究	教 授 長谷崎和洋	工学
*	先端的手法を用いた実測およびモデル論的考察に基づく生体機能の発現と破綻に関与する力学環境の解明と治療応用	教 授 松本 健志	工学
	表面処理技術を中心とした各種手法による材料の高強度化, 高機能化	教 授 米倉 大介	工学
	赤外線サーモグラフィによる温度計測を利用した材料評価・非破壊検査手法に関する研究	准教授 石川 真志	工学
	細胞バイオメカニクスに基づく医工融合領域に関する研究	准教授 佐藤 克也	工学
	実験と数値流れ解析を用いた流体機械と再生可能エネルギーに関する研究	准教授 重光 亨	工学
	材料科学分野における新しいバイオ素材に基づく材料の開発, およびその作成工程, 特性評価と応用	准教授 NAKAGAITO ANTONIO NORIO	工学
	ものづくりの根幹を支える精密加工技術の開発およびその加工メカニズムの解明	准教授 溝渕 啓	工学
	無人機システムの社会実装を目指した研究	准教授 三輪 昌史	工学

*印は令和 10 年 3 月末までの退職予定者を示します。

*印が付いた教員は標準年限の全期間を指導できません。

【電気電子物理科学系プログラム】

電気電子物理科学系プログラムでは中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、電気電子工学や物理学に関する最新の基盤技術・基幹技術・先端技術を理解し、グローバルな視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

概 要	研究指導教員	学位に付記する専攻分野 (願書記入時の学位の分野)
素粒子の理論的なモデルや宇宙初期におけるインフレーションの理論の研究	教 授 井澤 健一	工学
単結晶・大面積をもつエピタキシャルグラフェンを利用した次世代型高感度バイオセンサの応用開発	教 授 大野 恭秀	工学
宇宙線観測のための測定器開発および観測データ解析による宇宙線物理学の研究	教 授 折戸 玲子	工学
電力機器設備における絶縁診断のための電磁波センシング技術、電磁波解析技術、信号処理技術の開発	教 授 川田 昌武	工学
パルスパワーの環境やバイオ分野等の応用研究・開発、およびパルスパワーの発生・計測技術の開発	教 授 下村 直行	工学
各種放電プラズマの生成と計測技術、ならびにこれらを利用した環境浄化と医療応用に関する研究	教 授 寺西 研二	工学
ナノ微小光学を用いた光計測技術および光機能材料・デバイスの開発	教 授 直井 美貴	工学
固体におけるイオン伝導機構の解明と次世代超イオン伝導体の開発	教 授 中村 浩一	工学
非線形振動回路網に発生する同期やカオスの解析手法の開発、およびその工学システムへの応用	教 授 西尾 芳文	工学
宇宙暗黒物質、二重ベータ崩壊など原子核・素粒子物理学を基盤とした宇宙科学の実験的研究	教 授 伏見 賢一	工学
多様なエネルギー源を活用した持続可能な電力システムの創造と、電力変換技術を応用したその高度な制御機器の開発	教 授 北條 昌秀	工学
核磁気共鳴法を用いた、強相関物理学分野における新奇量子現象の機構解明、およびその応用による機能性開発	教 授 真岸 孝一	工学
人工知能を応用した各種システム(ロボット、医療・福祉機器、風力・太陽光発電、農業支援システム)の制御および予測	教 授 安野 卓	工学
回路設計・シミュレーション・チップ試作を用いた、故障検査および検査容易化設計による集積回路の高信頼化手法の開発	教 授 四柳 浩之	工学
新たな核磁気共鳴法の開発、および機能性材料への応用	准教授 犬飼 宗弘	工学
ニューロサイエンスで観測される高次元生体信号に対する非線形データ解析法の適用と新たな特徴抽出に関する研究	准教授 上手 洋子	工学
生体医工学分野における新たな生体計測・生体信号処理・生体モデリング技術の開発	准教授 榎本 崇宏	工学

概 要	研究指導教員	学位に付記する専攻分野 (願書記入時の学位の分野)
強相関電子系をはじめとした様々な新奇物質で現れる新しい量子相およびそれらに伴う磁気および伝導現象に関する研究	准教授 川崎 祐	工学
幅広く使用される動画像の処理, 人工知能を用いた動画像の符号化アルゴリズムや, 集積回路による低消費電力実装方法等の諸問題	准教授 宋 天	工学
ワイドバンドギャップ半導体材料を主とする物質の物性分析やレーザー照射による改質現象および加工現象	准教授 富田 卓朗	工学
ワイドギャップ半導体の超高温結晶成長技術を基盤とした, 殺菌 LED など次世代半導体デバイスについての研究	准教授 永松謙太郎	工学
酸化物系ワイドギャップ半導体や新規薄膜太陽電池材料であるシリサイド系半導体の結晶成長およびデバイス応用	准教授 西野 克志	工学
各種センサを用いた生体計測, 生体シミュレーション, 生体信号の解析等, 生体医工学に関する研究	講 師 芥川 正武	工学
半導体光触媒ナノ構造体の創成, 高機能材料と生命科学のためのプラズマエレクトロニクス技術の創成応用	講 師 川上 烈生	工学
ソフトコンピューティング技術を活用した計測・制御システムの開発と農業・福祉・エネルギー分野への応用	講 師 鈴木 浩司	工学
機能性結晶合成および高圧物性計測技術開発による強相関電子系の新奇物性探索	講 師 久田 旭彦	工学

*印は令和 10 年 3 月末までの退職予定者を示します。

*印が付いた教員は標準年限の全期間を指導できません。

【知能情報・数理科学系プログラム】

知能情報・数理科学系プログラムでは中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、知能情報工 学や数理科学に関する最新の基盤技術・基幹技術・先端技術を理解し、グローバルな視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

	概 要	研究指導教員	学位に付記する専攻分野 (願書記入時の学位の分野)
*	情報処理分野における数理モデルの新たな同定手法の開発, およびそれらの定性的・定量的解析を数値計算により実現する方法の構築	教 授 上田 哲史	工学
	古今の論文を購読しつつ, 計算機などを用いた大規模な計算を通じた解析的な関数方程式の研究	教 授 大山 陽介	工学
	非線形現象に対する微分方程式や関数方程式の数理モデルと数理解析理論	教 授 小野 公輔	工学
	情報ネットワーク分野における新たな手法の考案, およびその応用によるネットワークシステムの開発	教 授 木下 和彦	工学
	マルチメディア工学分野における新たな手法の考案, およびその応用システムにおける検索・分類・教育支援機能の開発	教 授 獅々堀正幹	工学
*	整数論分野における最新の研究や応用の調査および各種の問題に対する新たな実例や結果の発表	教 授 高橋 浩樹	工学
	高速かつ数値的安定性に優れた高精度数値計算法の研究	教 授 竹内 敏己	工学
	画像処理・コンピュータビジョン分野における新たな手法の考案, およびその応用による産業用画像処理法の開発	教 授 寺田 賢治	工学
	情報工学分野, 特に進化計算, 機械学習の分野における新しい手法の開発およびその応用によるシステム開発	教 授 永田 裕一	工学
	グラフ理論分野における構造的性質の解明, 構成的証明, 改善構成アルゴリズムの設計, およびそれらの応用に関する考察	教 授 蓮沼 徹	工学
*	ヒューマンセンシングとデジタル信号処理分野における新たな手法の開発, およびその応用による知的情報処理システムの開発	教 授 福見 稔	工学
	自然言語処理・情報検索分野における新たな手法の考案, およびその応用の開発	教 授 泓田 正雄	工学
	学習支援システム分野における人間中心デザインの新しいモデル, 手法, 技術の考案	教 授 松浦 健二	工学
	ヒューマンコンピュータインタラクション分野における新たな手法の開発, およびその応用による学習支援システム	教 授 光原 弘幸	工学
	制御工学分野における新たな手法の考案, およびその応用による制御システムの開発	准教授 池田 建司	工学
	人を支援するヒューマンインタフェースに関する研究開発, およびその開発に必要な情報処理・信号処理技術	准教授 伊藤 伸一	工学
	実社会における問題を数理モデルにより構築する際に生じる大規模かつ複雑な最適化問題に対する効率的解法アルゴリズムの開発	准教授 宇野 剛史	工学

概 要	研究指導教員	学位に付記する専攻分野 (願書記入時の学位の分野)
様々な運動方程式から由来する楕円型方程式および放物型方程式について、解の存在および一意性、またそれらの解の性質の解析についての研究	准教授 大沼 正樹	工学
部分多様体および幾何学的フローに関する幾何解析	准教授 國川 慶太	工学
情報セキュリティや情報システム、ハードウェアにおけるモデルやシステムの開発と応用	准教授 佐野 雅彦	工学
平面曲線の埋込位相および関連した代数多様体の研究	准教授 白根 竹人	工学
感性情報処理分野、特に自然言語処理を用いた言語からの感情分析における新たな手法の開発、およびその応用	准教授 松本 和幸	工学
自然言語処理分野における新たな手法の考案、およびその応用による感性情報処理・知識処理技術の開発	准教授 森田 和宏	工学
曲面と離散化された曲面の微分幾何および数理科学の研究	准教授 安本 真士	工学
情報処理分野における新たな手法の開発、およびその応用によるコンピュータビジョン	講 師 カルンガル ステイフィン ギディンシ	工学
人間中心 A I の信頼性・安全性向上技術、動的知識抽出・管理技術、およびこれらを基盤としたマルチモーダル健康分析・病気早期発見技術の開発	講 師 康 鑫	工学
ホモロジー代数的手法を用いた可換環および代数多様体の研究	講 師 松井 紘樹	工学

*印は令和 10 年 3 月末までの退職予定者を示します。

*印が付いた教員は標準年限の全期間を指導できません。

【生物資源学系プログラム】

生物資源学系プログラムでは、中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、農林畜水産業を地 方創生の原動力として、我が国の持続的発展、国際競争力の向上、人類社会への貢献に資する高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

	概 要	研究指導教員	学位に付記する専攻分野 (願書記入時の学位の分野)
	栄養機能性および毒性成分の空間的な解析による食品の品質理解と制御	教 授 榎元 廣文	農学
	代謝工学を活用した機能性化合物の微生物生産開発	教 授 櫻谷 英治	農学
	健康の維持・増進および疾病治療に寄与する生物資源由来の機能性成分の探索とその有効利用	教 授 田井 章博	農学
	食事性脂質の構造, 消化, 吸収, 代謝および生体調節機能の解明	教 授 田中 保	農学
	動物, 特に大動物家畜における生殖工学および遺伝子改変技術開発	教 授 谷原 史倫	農学
	バイオビジネス, アグリ産業, バイオエコノミー分野などに関する生物資源産業の創成	教 授 中澤 慶久	農学
*	森林微生物の代謝機構の解明と, それを基盤とした森林資源の付加価値の高い循環利用の構築	教 授 服部 武文	農学
	動物生産における飼養管理システム開発と生産効率化に関する研究	教 授 平田 真樹	農学
	ゲノム機能の理解を基盤とした昆虫資源の開発と活用	教 授 三戸 太郎	農学
*	ブタを用いた繁殖・育種・肥育と, そのアウトプットである食肉・食肉加工品の系統的研究	教 授 森松 文毅	農学
	食品成分等の生体機能への機能性評価および健康長寿に寄与する機能性食品・サプリメント等への応用	准教授 赤松 徹也	農学
	極限環境微生物由来酵素の機能と構造の解明と応用開発	准教授 川上 竜巳	農学
	未利用資源および廃棄物の有効利用による有用物質生産法の開発	准教授 佐々木千鶴	農学
*	農作物や貴重な自然植生・植物個体の保護および生産性の向上や利活用に資する研究	准教授 佐藤 征弥	農学
	閉鎖環境における植物生育制御のための植物バイオテクノロジーに関する研究	准教授 宮脇 克行	農学
	食品の新規機能性の探索と機能性食品成分の体内動態並びに活性発現機構の解明	准教授 向井 理恵	農学
	被子植物の分類や種分化および保全における諸問題に関する研究	准教授 山城 考	農学
	針葉樹心材形成機構および植物有用成分の代謝機構の解明に関する研究	准教授 山村 正臣	農学

*印は令和 10 年 3 月末までの退職予定者を示します。

*印が付いた教員は標準年限の全期間を指導できません。

【光科学系プログラム】

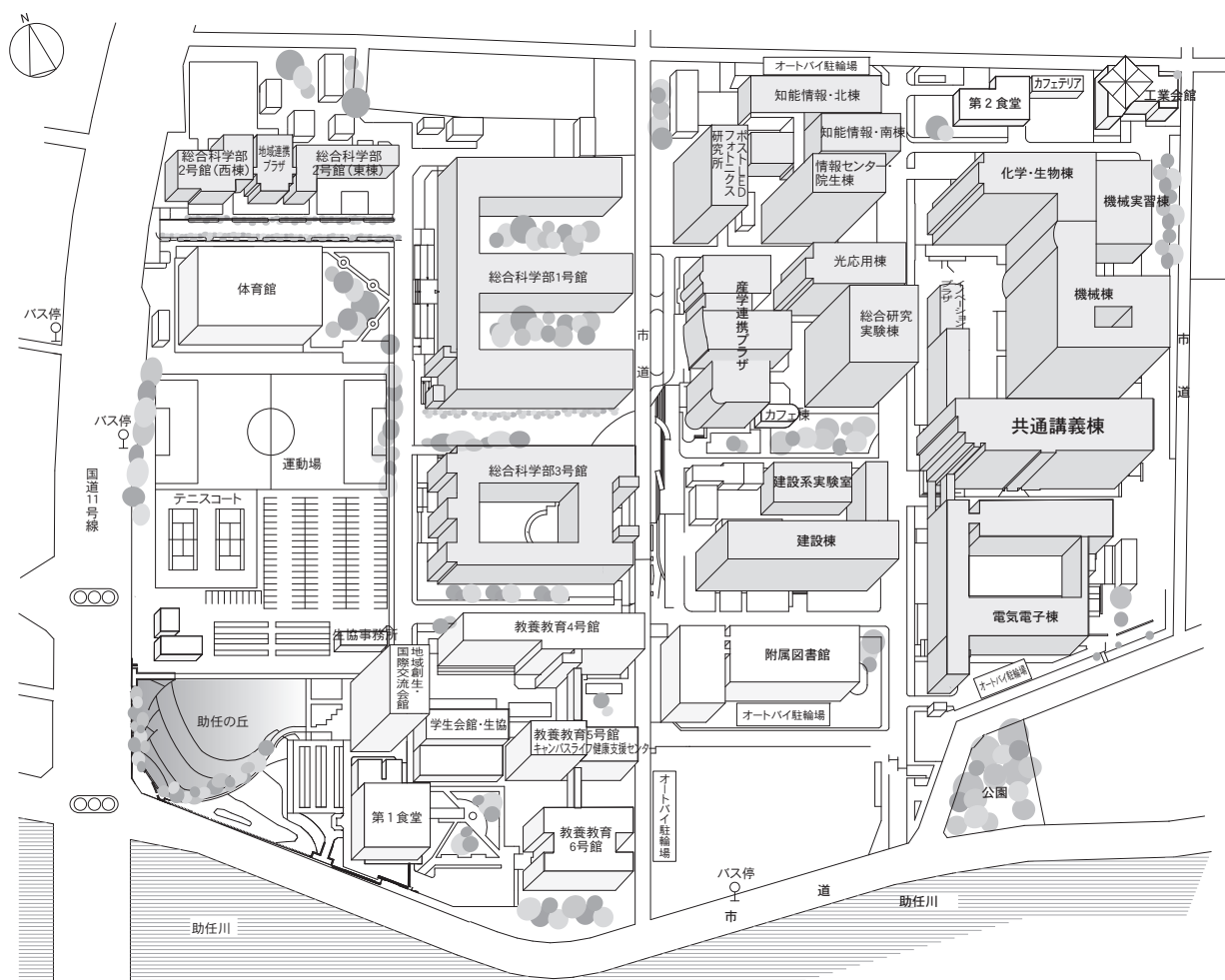
光科学系プログラムでは中長期的な産業界や社会ニーズを踏まえ、光科学に関する最新の基盤技術・基幹技術・先端技術を理解し、グローバルな視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において新たな価値を創成できる高度専門職業人・研究者・起業家人材を養成する。

	概 要	研究指導教員	学位に付記する専攻分野 (願書記入時の学位の分野)
	光周波数コムを中心とした新規レーザー光源の開発や、それら最先端レーザー光源による新規光計測技術の研究	教 授 久 世 直 也	工学
	高強度パルスレーザーを用いた新規ナノ材料の開発や、これらを用いた光デバイスの基礎研究	教 授 KOINKAR PANKAJ MADHUKAR	工学
*	光情報処理やセンシングへの応用を目指した、金属等のナノ構造体における光の振る舞いを利用するナノフォトニクスデバイスの研究開発	教 授 原 口 雅 宣	工学
	先進光機能素子および光機能回路による大容量光通信技術・光情報処理技術とその応用に関する研究	教 授 藤 方 潤 一	工学
	ナノ材料における超高速光応答過程の分光分析技術の開発や光機能材料の反応機構の解明について研究	教 授 古 部 昭 広	工学
	テラヘルツ波や光コムといった次世代フォトニクスを駆使した知的光計測と医光融合研究について研究	教 授 安 井 武 史	工学
	ナノスケールの光計測技術・光材料開発と、それらを用いた先端光イメージング・センシング応用	教 授 矢 野 隆 章	工学
	人に優しい情報環境の実現をめざした光学・映像分野における新たな手法の創出やその応用についての研究	教 授 山 本 健 詞	工学
	特異な光学特性を持つ光メタマテリアルの開発、および表面プラズモンを利用した非線形ナノフォトニックデバイスの開発	准教授 岡 本 敏 弘	工学
	超高速顕微分光計測装置の開発と微小領域における光化学反応機構の解明への応用についての研究	准教授 片 山 哲 郎	工学
	光通信網の高度化と大容量かつ高効率な光伝送を実現する光信号処理技術、送受信技術、多重化技術等の新たな手法の創出	准教授 岸 川 博 紀	工学
	ワイドギャップ半導体の超高温結晶成長技術を基盤とした、殺菌 LED など次世代半導体デバイスについての研究	准教授 永 松 謙 太 郎	工学
	医用光ナノ材料・デバイス設計とその顕微観察技術に関する研究	准教授 柳 谷 伸 一 郎	工学

*印は令和 10 年 3 月末までの退職予定者を示します。

*印が付いた教員は標準年限の全期間を指導できません。

講義室配置図



知能情報・南棟

- 1階 101～107
- 2階 コース事務室, 201～208
- 3階 301～308
- 4階 401～408
- 5階 501～509

知能情報・北棟

- 1階 101～113
- 2階 201～211

光応用棟

- 1階 コース事務室, 101～108
- 2階 201～212
- 3階 301～311
- 4階 401～413
- 5階 501～511

工業会館

- 1階 多目的室
- 2階 セミナールーム
メモリアルホール

総合科学部 1号館

- 1階 総合科学部事務課学務係 (大学院担当)
1S01～1S28, 1M01～1M24, 1N01～1N11
- 2階 コース事務室, 第2会議室, 第3会議室
2S01～2S24, 2M01～2M19, 2N01～2N27
- 3階 3S01～3S14, 3M01～3M24, 3N01～3N09

総合科学部 3号館

- 1階 コース事務室

機械棟

- 1階 M101～M123
- 2階 M201～M212
- 3階 コース事務室
M301～M326
- 4階 M401～M427
- 5階 M501～M528
- 6階 M601～M625
- 7階 M705～M720
- 8階 M801～M821

化学・生物棟

- 1階 101～108
- 2階 コース事務室
化学系会議室205
201～216
- 3階 301～315
- 4階 401～416
- 5階 501～516
- 6階 601～616
- 7階 701～718
- 8階 801～831

共通講義棟

- 1階 西側 理工学部事務課学務係
(大学院担当)
西側 会計課 経理係
中央 証明書自動発行機
- 2階 K201～K207
- 3階 K301～K309
- 4階 K401～K407
- 5階 K501～K507
- 6階 K601, K602, 創成学習スタジオ

建設棟

- 1階 A101～A118
- 2階 生物資源産業学部事務課学務係
(大学院担当), A201～A227
- 3階 コース事務室
A301～A323
- 4階 A401～A421
- 5階 A501～A521

電気電子棟

- 1階 応接室
コース事務室
E101～E117
- 2階 E201～E235
セミナー室
- 3階 E301～E330



	2025（令和7）年10月入学
	2026（令和8）年4月入学

（↑いずれかにチェックをつけてください）

2025（令和7）年10月入学
2026（令和8）年4月入学



徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程
（一般入試）

入学志願票

受験番号	※
------	---

ふりがな				生年	昭和	年	月	日生（男・女）
氏名				月日	平成			
国籍及び在留資格（日本国籍を有しない者のみ記入）								
国籍：			在留資格：					
志望プログラム				志望学位				
希望指導教員								
出身大学	令和							
	大学大学院			研究科	(修士・博士前期)			
			専攻	昭和	年	月	修了	修了見込
			平成					
			令和					
勤務先又は職業								
現住所	〒	TEL 携帯電話番号						
受信場所	〒	TEL						
メールアドレス								

〔記入上の注意〕

※裏面も記入してください

- ※印欄には記入しないこと。
- 記入はペン又はボールペンを用い、楷書で記入すること。
- 「受信場所」は、入学決定までの通信を受ける場所を記入し、変更した場合は速やかに届け出ること。
- 履歴事項は、できるだけ詳細に記入すること。

中国の高等教育機関を卒業し、本学研究生等に在籍経験がない出願者は、学歴証明をオンラインで確認しますので、中国高等教育学生情報網(<http://www.chsi.com.cn>)で照会番号を取得し、下記に記載してください。

番号1		番号2	
-----	--	-----	--

	2025（令和7）年10月入学
	2026（令和8）年4月入学

（↑いずれかにチェックをつけてください）

2025（令和7）年10月入学
2026（令和8）年4月入学

徳島大学大学院創成科学研究科（博士後期課程）

受験票（一般）

受験番号	※
氏名	

写真欄 (4×3cm)

〔注 意〕

この受験票を

入学時まで

募集要項を取り寄せて作成してください



2025（令和7）年10月入学
2026（令和8）年4月入学

徳島大学大学院創成科学研究科
（博士後期課程）

写真票（一般）

受験番号	※
氏名	

写真欄 (4×3cm)

	2025（令和7）年10月入学
	2026（令和8）年4月入学

（↑いずれかにチェックをつけてください）



履歴書		
学歴	年 月	事 項
高等学校卒業から記入すること。 なお、大学等での研究生等として在学歴がある場合は、その期間も記入すること。 ※外国人留学生は、小学校から記入すること。	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
職歴	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
資格	年 月	
	年 月	
	年 月	
賞 罰	年 月	
	年 月	

受験番号	※
------	---

※印欄は大学が記入します

博・後
一般

推薦書

徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程創成科学専攻 _____ プログラム

入学志願者 _____ を下記により推薦します。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

推薦者（下記〔注〕参照）

〔所 属〕・〔職 名〕・〔氏 名〕

印

◎志願者の研究分野と将来の希望及び素質、性格等についての御意見を、また、志願者との関係についても下欄に御記入ください。
(御記入後は厳密封鎖願います。)

--

〔注〕推薦書の記入者〔推薦者〕は、原則として本人を指導した教員とする。ただし、有職者の場合にあっては、本人を熟知し職場において指導的立場にある者であってもかまわない。



☐	2025（令和7）年10月入学
☐	2026（令和8）年4月入学

（↑いずれかにチェックをつけてください）

2025（令和7）年10月入学
2026（令和8）年4月入学



徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程
（社会人特別入試）

入 学 志 願 票

受験番号	※
------	---

ふりがな		生年	昭和	年	月	日生（男・女）
氏 名		月日	平成			
国籍及び在留資格（日本国籍を有しない者のみ記入）						
国籍：			在留資格：			

志 望 プログラム	
希 望 指導教員	

募集要項を取り寄せて作成してください

出身大学	大学	学部	学科		
	昭和 平成 令和	年	月卒業		
	大学大学院	研究科 教育部	(修士・博士前期)		
	専攻	昭和 平成 令和	年	月	修了 修了見込
勤 務 先 又は職業					
現 住 所	〒	TEL 携帯電話番号			
受信場所	〒	TEL			
メールアドレス					

〔記入上の注意〕

※裏面も記入してください

- ※印欄には記入しないこと。
- 記入はペン又はボールペンを用い、楷書で記入すること。
- 「受信場所」は、入学決定までの通信を受ける場所を記入し、変更した場合は速やかに届け出ること。
- 履歴事項は、できるだけ詳細に記入すること。

写 真 欄
(4×3cm)

☐	2025（令和7）年10月入学
☐	2026（令和8）年4月入学

（↑いずれかにチェックをつけてください）

2025（令和7）年10月入学
2026（令和8）年4月入学

徳島大学大学院創成科学研究科
（博士後期課程）

受験票（社会人）

受験番号	※
氏 名	

写 真 欄
(4×3cm)

〔注 意〕

- 受験の際は、この受験票を必ず持参すること。
- この受験票は、入学時まで保存すること。



履歴書		
学歴	年 月	事 項
高等学校卒業から記入すること。 なお、大学等での研究生等として在学歴がある場合は、その期間も記入すること。 ※外国人留学生は、小学校から記入すること。	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
職歴	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
	年 月	
資格	年 月	
	年 月	
	年 月	
賞 罰	年 月	
	年 月	

受験番号	※
------	---

※印欄は大学が記入します

博・後
社会人

推薦書

徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程創成科学専攻 _____ プログラム

入学志願者 _____ を下記により推薦します。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

推薦者（下記〔注〕参照）

〔所 属〕・〔職 名〕・〔氏 名〕

印

◎志願者の研究分野と将来の希望及び素質、性格等についての御意見を、また、志願者との関係についても下欄に御記入ください。
(御記入後は厳封願います。)

--

〔注〕推薦書の記入者〔推薦者〕は、勤務先の所属長またはこれに準ずる者で、本人を熟知し職場において指導的立場にある者とする。

志望理由書

No. 1

受験番号	※	氏 名	
------	---	-----	--

[illegible]

修士學位論文要旨

No. 1

受験番号	※	氏 名	
------	---	-----	--

[illegible]

修士學位論文要旨

No. 2

受験番号	※	氏 名	
------	---	-----	--

[illegible]

修士學位論文要旨

No. 3

受験番号	※	氏 名	
------	---	-----	--

[illegible]

※印欄は記入しないこと

徳島大学大学院創成科学研究科

修士学位論文要旨

No. 4

受験番号	※	氏 名	
------	---	-----	--

[illegible]

※印欄は記入しないこと

研究業績調書 (その 1)

氏 名

志望専攻	創成科学専攻	志望 プログラム		プログラム	受験番号	※
職歴	勤務期間	勤務先	主な職務内容			
研究計画に関する過去の職務内容（1,000字以内）						

研究業績調書（その 2）

氏 名

志望専攻	創成科学専攻	志望 プログラム	プログラム	受験番号	※
学術論文，研究発表・報告，特許等の名称			発行又は発表の 年 月 日	発行所，発表雑誌等又は 発表学会等の名称	備考（共著者名 又は共同発表者名）

(注) 1 年代順に記載のこと。また，学術論文等は，別刷又は写を添付すること。
2 ※欄は，記入しないこと。

研究計画書

No. 1

受験番号	※	氏 名	
------	---	-----	--

[illegible]

受 験 番 号	※
------------	---

※印欄は大学が記入します

受 験 許 可 書

氏名

昭和 年 月 日生
平成

上記の者が、徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程の入学試験を受
験することを許可します。

令和 年 月 日

徳島大学大学院創成科学研究科長 殿

住 所

所属機関

所 属 長



徳島大学大学院創成科学研究科博士後期課程
入学試験出願資格認定審査調書

ふりがな 氏 名		現 職		希望指導教員	
生年月日(年齢)	昭和 平成	年 月 日生(歳)	現住所	〒	
学 歴					
年 月 日	事 項				
職 歴					
年 月 日	事 項				
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等					
年 月 日	事 項				

検定料の払い込みについて

- 1 この払込用紙は、本学学納金の払込用紙としてゆうちょ銀行の承認を受けたものです。
- 検定料を払い込む場合は、必ずこの払込用紙を使用して最寄りのゆうちょ銀行又は郵便局の窓口から払い込んでください。
(ATMは使えないのでご注意ください)

募集要項を取り寄せて作成してください

- 取り線から払込用紙を切り取り、ゆうちょ銀行又は郵便局の窓口へ検定料に手数料を添えて提出してください。(払込用紙は3連式ですので、切り離さないでください。)
- 3 検定料を払い込んだ際には、日附印が押印された「検定料払込証明書(出願用)」を必ず受領してください。
- 4 「検定料払込証明書(出願用)」は、「検定料払込証明書」の指定の欄に貼付して願書に添付して提出してください。
- 5 この払込用紙の「振替払込請求書兼受領証」をもって国立大学法人徳島大学の領収証書に代えさせていただきますので、別に領収証書を送付することはありません。

切り取り線

振替払込

払込取扱票

00		口 座 記 号 番 号												金 額		千 百 十 万 千 百 十 円	
0 1 6 3 0 0		9 2 5 3 5		3 0 0 0 0		3 0 0 0 0		3 0 0 0 0		3 0 0 0 0		3 0 0 0 0		3 0 0 0 0		3 0 0 0 0	
加入者名		国立大学法人 徳島大学												特殊		取扱	
通 信 欄		2026(令和8)年度創成科学研究科博士後期課程 検定料															
おとこころ(郵便番号)														日 附 印			
志 願 者		様												日 附 印			
おなま		(電話番号)															
真面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)承認番号徳第4381号														これより下部には何も記入しないでください。			

証

検定料払込証明書(出願用)

口 座 記 号 番 号		0 1 6 3 0 0 - 0 - 9 2 5 3 5												加入者名		国立大学法人 徳島大学												千 百 十 万 千 百 十 円		払込金額		3 0 0 0 0		※		志 願 者		住所氏名		日 附 印			
記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。																																											

各票の※印欄は、志願者において記載してください。

募集要項を取り寄せて作成してください

紙は、機械で処理します
金額を記入する際は、枠
つきりと記入してください
を、本票を汚したり、折
たりしないでください。
紙による、払込料金は、
人様が負担することとな

人様からご提出いただき
払込書に記載されたおと
おなまえ等は、加入者様
されます。

領証は、払込みの証拠と
なりますから大切に保管し
さい。

収入印紙
5万円以上
貼付

印

この場所には、何も記載しないでください。

創成科学研究科博士後期課程
入 学 出 願 用

受験番号（大学記入欄）

検 定 料 払 込 証 明 書

「検定料払込証明書（出願用）」貼付場所



あて名票

合格通知等を受け取る住所、氏名、郵便番号を3箇所全てに記入すること。
団地・アパート等に居住している者は、棟番号、戸番を入れ、間借りをしている者は、「〇〇様方」と詳しく記入すること。
なお、出願後又は合格発表後、住所変更した場合は、速やかに届け出ること。

合格通知等送付用→
(9月中旬)
※必ず受け取ること
ができる住所
を記入すること

住所

TEL

氏名

殿

受験番号※

募集要項を取り寄せて作成してください

合格通知等送付用→
(予備：上記と同じ
あて名を記入すること)

TEL

氏名

殿

受験番号※

※印欄の受験番号は大学が記入します。

入学手続案内用→
(10月入学者：9月中旬)
(4月入学者：2月中旬)
※必ず受け取ること
ができる住所
を記入すること

住所

TEL

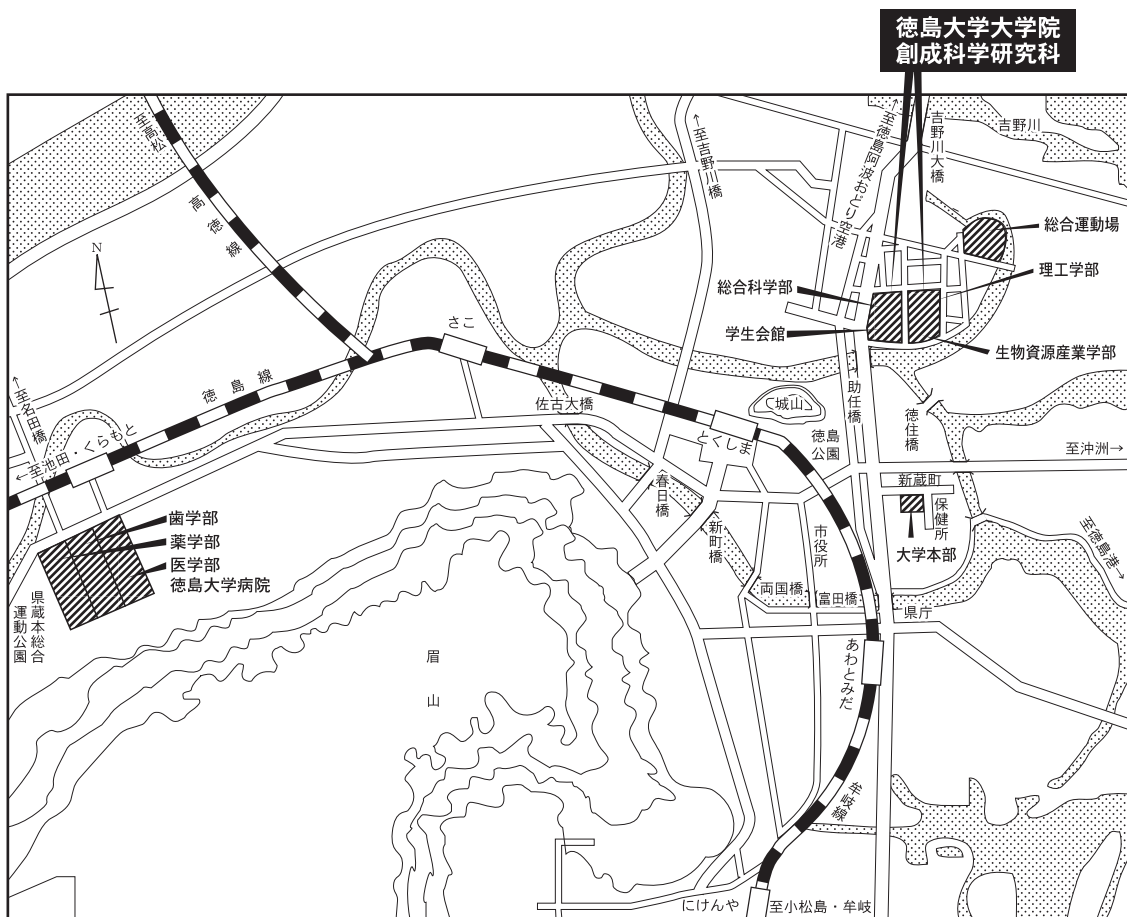
氏名

殿

受験番号※

※印欄の受験番号は大学が記入します。

●徳島大学位置図●

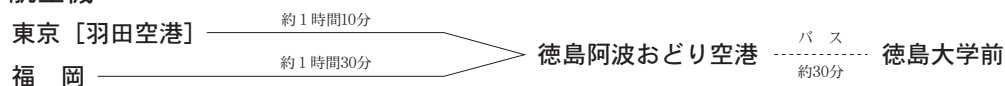


交通アクセス

交通アクセス

- 航空機
- ==== 列車
- ~~~~ 船舶
- バス

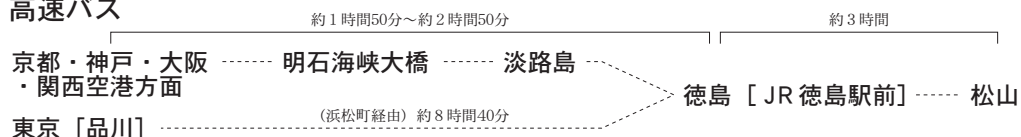
◎ 航空機



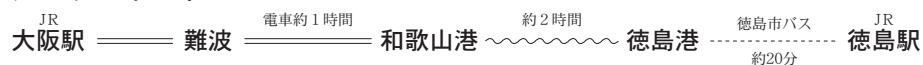
◎ 列車



◎ 高速バス



◎ フェリーボート



切 郵
手 便

7 7 0 - 8 5 0 2

徳島市南常三島

徳島大学総合科

在

+

募集要項を取り寄せて作成してください

J 目 一 番 地

事務課学務係 御中

入学願書在中

目 留 ・ 速 達

差 出 人	入試種別 (いずれかに○)	一 般	社会人特別	外国人留学生特別
	志望専攻 プログラム	創成科学専攻 プログラム		
	住 所	〒		
	氏 名			

※送付書類確認用チェック表

	一 般	社会人	留学生 Non-Japanese
入 学 志 願 票 Application for Admission			
受 験 票 Admission Card			
写 真 票 Photo Card			
あ て 名 票 Address Labels			
修 了 (見 込) 証 明 書 Certificate of Degree (Expected)			
成 績 証 明 書 (学 部) Certificate of Academic Record (under graduate)			
成 績 証 明 書 (大 学 院) Certificate of Academic Record (graduate school)			
修 士 学 位 論 文 要 旨 Summary of Master's Thesis			
研 究 経 過 報 告 書 Interim Report of Thesis Research			
研 究 業 績 調 書 List of Research Achievements			
研 究 計 画 書 Research Plan			
推 薦 書 Recommendation			
受 験 許 可 書 Consent of Application			
TOEIC「公式認定証」又はTOEIC 「デジタル公式認定証」又はTOEFL 「受験者用控えスコアレポート」又は TOEFL「公式スコアレポート」等 Certificate of TOEIC or TOEFL score			
検 定 料 払 込 証 明 書 Certificate of Payment of Examination Fee			
受 験 票 送 付 用 封 筒 Envelope for Return			
志 望 理 由 書 Statement of purpose			
住 民 票 Resident Record			
口 頭 発 表 資 料 Documents of personal interview (社会基盤システムプログラム(学術)のみ) (Applicants for Social and Infrastructure System Program (Doctor of Philosophy))			

詳細は募集要項を確認すること
Please confirm your documents

速達

- ① 410円の切手を貼ること。
② 住所氏名郵便番号を明記すること。

--	--	--	--	--	--	--

募集要項を取り寄せて作成してください

〔受験票在中〕

殿

徳島大学総合科学部
事務課 学務係

徳島市南常三島町1丁目1番地

電話 徳島 (088) 656-7108

F A X (088) 656-9314

郵便番号 770-8502

※受験の際は同封の受験票をご持参ください。